

# 個別の政策分野の動向 ～緑豊かな環境づくり～

平成27年3月23日

## 川崎市

1

### 本資料の位置づけ・構成

#### 本資料の位置づけ

本資料は、本市の新しい総合計画策定のための基礎的資料として、みどり分野の動向とそれによる地域の課題について、各種データを用いて示したものである。

#### 本資料の構成

##### 1 水辺とみどり

- ①公園緑地総面積の推移
- ②都市公園面積の推移
- ③市民一人当たりの公園面積
- ④市民一人当たりの公園面積(大都市比較)
- ⑤区別公園緑地面積及び市民一人当たり公園緑地面積
- ⑥川崎市緑の基本計画①
- ⑦川崎市緑の基本計画②
- ⑧川崎市緑の基本計画③
- ⑨緑地保全制度の概要
- ⑩大規模公園緑地(富士見周辺)
- ⑪大規模公園緑地(等々力緑地周辺)
- ⑫大規模公園緑地(生田緑地周辺)
- ⑬公園管理の活動
- ⑭緑化基金
- ⑮緑地保全の活動
- ⑯多摩川の魅力を活かした取組
- ⑰水質が改善した多摩川

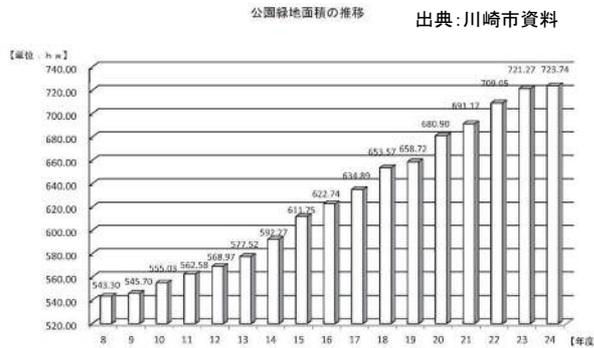
2

## 2 水辺とみどり①

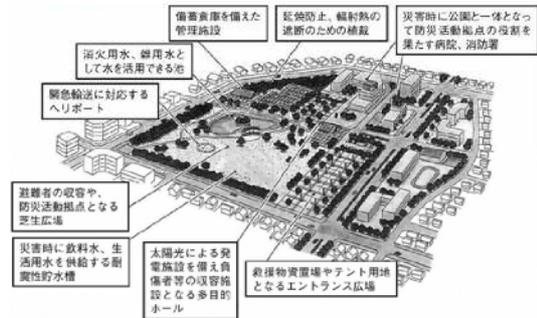
### 公園緑地総面積の推移

本市の公園緑地の現況は、平成24年度末現在、1,216箇所・面積723.74haで、市民一人当たり5.02㎡となっており、箇所数、面積は増加傾向になっている。

身近な自然とのふれあいや住民の交流、協働の場だけでなく、災害発生時の避難地、救援活動拠点としての機能が期待されている。



### ■防災公園のイメージ



#### ● 住区基幹公園の活用状況

身近な街区公園、近隣公園等の住区基幹公園は、避難場所、食料等の配給拠点、ライフラインの復旧、地域情報の提供の場として機能。



#### ● 都市基幹公園、広域公園、国営公園の活用状況

駐車場や広場等を拠点として活用し、生活物資等の集積場及び配送等の支援活動の場として機能。



出典：国土交通省

## 2 水辺とみどり②

### 都市公園面積の推移

本市の都市公園は施設数、面積ともに増加しており、近年は大公園では面積が、小公園では施設数が増えている。

(単位: ha)

年度別	総数		大公園		小公園		緑地		緑道	
	個所数	面積	個所数	面積	個所数	面積	個所数	面積	個所数	面積
平成 20年度	1 027	512.66	45	331.44	869	110.00	93	63.60	20	7.62
21年度	1 039	518.31	45	336.04	881	111.02	93	63.63	20	7.62
22年度	1 059	540.27	48	358.01	895	110.84	96	63.81	20	7.62
23年度	1 065	548.72	48	366.25	902	111.11	96	63.81	19	7.56
<b>24年度</b>	<b>1 082</b>	<b>554.12</b>	<b>48</b>	<b>366.75</b>	<b>912</b>	<b>111.93</b>	<b>103</b>	<b>67.88</b>	<b>19</b>	<b>7.55</b>

本表は、各年度末現在における都市公園の概況を表わしたものである。都市公園とは、都市公園法第2条の2に基づき、公園管理者が設置した公園、緑地、緑道等である。大公園とは近隣公園、地区公園、総合公園、及び特殊公園であり、小公園は街区公園である。

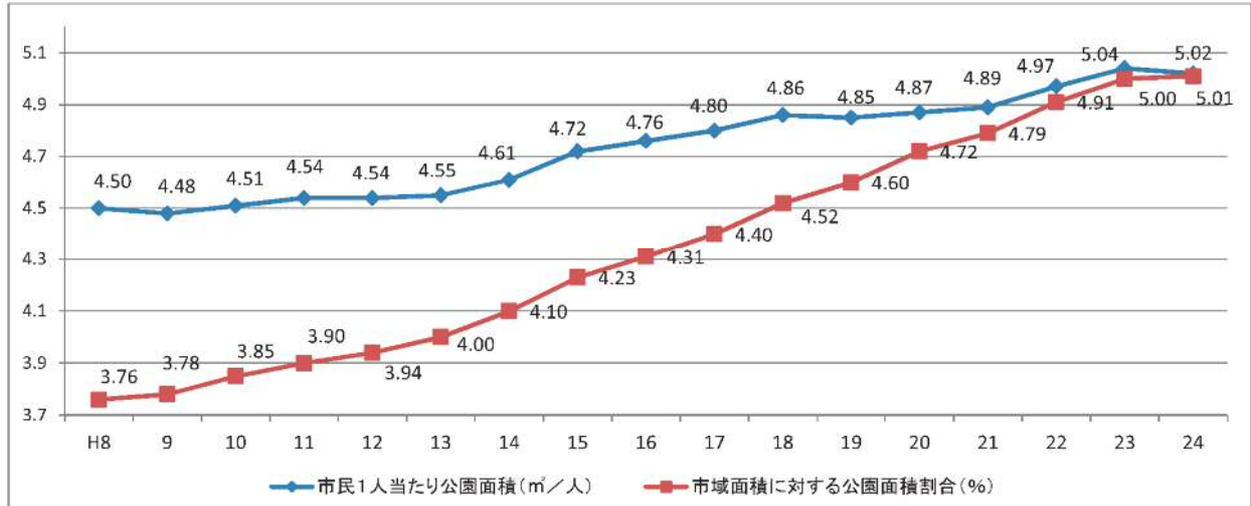
出典：川崎市統計書(平成25年版)

## 2 水辺とみどり③

### 市民一人当たりの公園面積

本市の市民一人当たり公園面積、市域面積に対する公園面積割合は着実に増加している

市民一人当たり公園面積、市域面積に対する公園面積割合の推移



出典:川崎市資料

5

## 2 水辺とみどり④

### 市民一人当たりの公園面積(大都市比較)

市民一人当たり都市公園面積は他の大都市と比較して低い水準である。



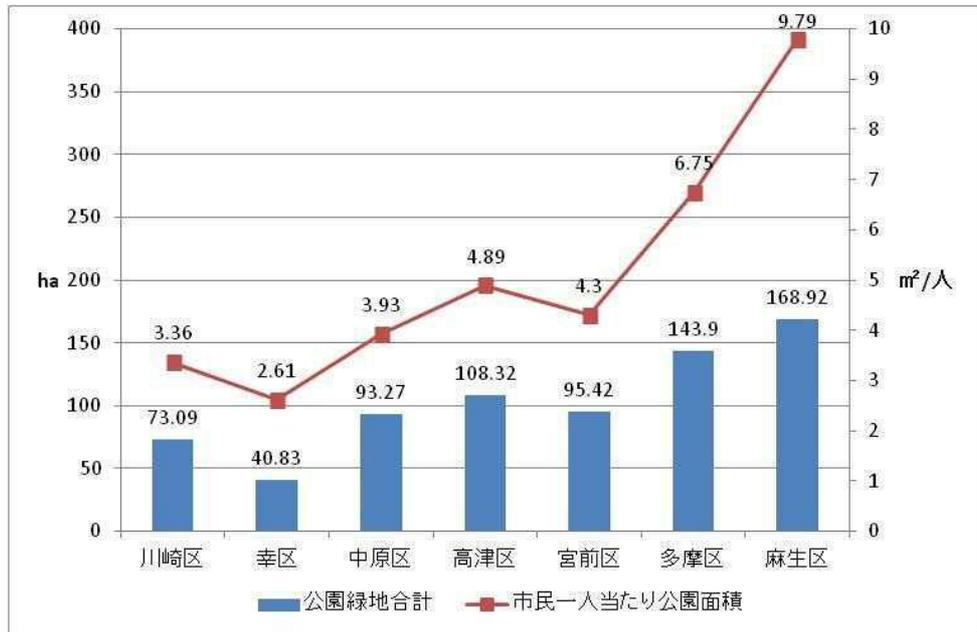
出典:川崎市資料

6

## 2 水辺とみどり⑤

### 区別公園緑地面積及び市民一人当たり公園緑地面積

区別では、最も公園緑地の面積が大きいのは麻生区、最も少ないのは幸区で、その差は約4倍を超えている。概ね総面積が大きい区が市民一人あたり面積も大きくなっている。



出典:川崎市資料

7

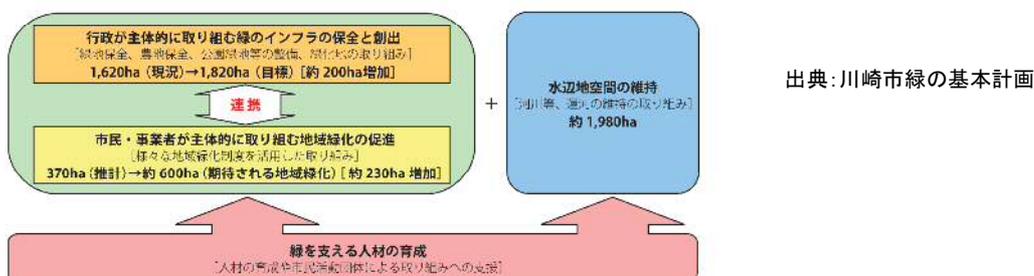
## 2 水辺とみどり⑥

### 川崎市緑の基本計画①

平成20年3月に改訂した「川崎市緑の基本計画」においては、平成30年時点で約4,400ha(430ha増)の緑の保全、創出、育成を目標としており、平成25年度末現在、行政が主体的に取り組んだ事業の実績値は、1,740ha(120ha増)となっている。

#### ○緑の施策目標 (施策展開によって10年後に想定される緑の量)

「行政が主体的に取り組む緑のインフラの保全と創出」、「市民・事業者等が主体的に取り組む地域緑化の促進」、「水辺地空間の維持」により、約4,400haの緑が保全、創出、育成され、その緑は多様な人材により支えられます。



緑のインフラの保全と創出に関する施策	2006年度の実績値 (緑の基本計画改定時)	2010年度の実績値	2013年度の実績値	2017年度の目標値
緑地保全	182ha	212ha	229ha	272ha
農地保全	413ha	405ha	388ha	416ha
公園緑地等の整備	671ha	741ha	766ha	769ha
緑化地の創出	354ha	357ha	357ha	358ha
合計	1,620ha	1,715ha	1,740ha	1,815ha

緑のインフラの保全と創出に関する施策	2006年度の実績値 (緑の基本計画改定時)	2010年度の実績値	2013年度の実績値	2017年度の目標値
緑地保全	182ha	212ha	229ha	272ha
農地保全	413ha	405ha	388ha	416ha
公園緑地等の整備	671ha	741ha	766ha	769ha
緑化地の創出	354ha	357ha	357ha	358ha
合計	1,620ha	1,715ha	1,740ha	1,815ha

出典:川崎市第3期緑の実施計画

8

## 2 水辺とみどり⑦

### 川崎市緑の基本計画②

「川崎市緑の基本計画」に基づき、様々な持続的な緑の保全・創出・育成の取組が行われている。

施策の区分	50の基本施策（下線はリーディングプロジェクト）
緑の協働に関する施策	●緑のボランティア活動の推進 ●緑のボランティアの育成の推進 ほか
緑地保全に関する施策	● <u>樹林地の保全</u> ●保全された緑地の適切な管理と持続的な取組 ●様々な施策による緑地の保全 ● <u>新たな緑地保全施策に向けた検討</u> ●関係自治体との広域連携の推進 ほか
農地の保全に関する施策	●農地の保全と活用 ●農を知る機会と参加する仕組みの充実
緑化の推進に関する施策	●道路の緑化推進 ●街路樹の適切な管理の推進 ●河川環境整備の推進 ●公共施設緑化推進 ● <u>緑化推進重点地区(候補地)における緑化推進</u> ●多様な手法による緑化推進 ほか
公園緑地の整備に関する施策	●大規模公園緑地の整備推進 ●身近な公園の整備推進 ●多様な手法による公園緑地の整備推進 ●リフレッシュパーク事業の推進
公園緑地の管理運営に関する施策	●公園緑地の維持管理の充実 ●多様な手法による公園緑地の管理運営 ●公園緑地の活性化の推進
多摩川の保全と活用に関する施策	●多摩川プランの推進 ●多摩川エコミュージアムプランの推進 ●多摩川緑地の整備と維持管理の充実 ●多摩川河口干潟の保全
臨海部に関する施策	●臨海部市拠点の土地利用再編機会を捉えた緑と水のまちなみ形成 ●「(仮称)かわさき臨海の森づくり」の <u>促進</u> ●臨海部における緑のストックの活用 ほか
緑の普及啓発に関する施策	●環境学習の推進 ●普及啓発活動の推進 ● <u>市民による緑化活動の推進</u> ●緑のストックのPRと活用の促進 ほか
緑の景観に関する施策	●景観計画と連携した緑の施策推進

9

## 2 水辺とみどり⑧

### 川崎市緑の基本計画③

緑の基本計画を牽引するリーディングプロジェクトとして、次の取組を推進している。

<p>○緑のボランティア活動の推進 【個別施策】 ・公園管理運営協議会の設立促進</p> 	<p>○緑のボランティアセンター機能の充実 【個別施策】 ・緑のボランティアセンター機能の充実 (交流拠点の確保と地域ごとの交流組織立ち上げ)</p> 
<p>○樹林地の保全 【個別施策】 ・特別緑地保全地区の指定拡大</p> 	<p>○多摩川プランの推進 【個別施策】 ・多摩川プランの推進 (3つのリーディングプロジェクトの推進)</p> 
<p>○新たな緑地保全施策に向けた検討 【個別施策】 ・かわさき里地・里山ミュージアム構想の推進</p> 	<p>○大規模公園緑地の整備推進 【個別施策】 ・総合公園の整備推進(富士見公園、等々力緑地、生田緑地) ・緑地の整備推進(省生緑地) ・霊園の整備推進(早野聖地公園)</p> 
<p>○緑化推進重点地区(候補地)における緑化推進 【個別施策】 ・緑化推進重点地区計画の策定</p> 	<p>○多様な手法による緑化の推進 【個別施策】 ・地域緑化推進地区認定の推進</p> 
<p>○(仮称)かわさき臨海の森づくりの促進 【個別施策】 ・事業所と連携した「かわさき臨海の森づくり宣言」の検討 ・事業所と連携した地区別緑化計画</p> 	<p>○市民による緑化活動の推進 【個別施策】 ・140万市民による植樹運動の推進</p> 

出典：川崎市緑の基本計画

10

## 2 水辺とみどり⑨

### 緑地保全制度の概要

本市では、様々な緑地保全制度を活用しながら、市域に残された貴重な樹林地等の保全を進めている。



川崎市の緑地保全施策は平成25年度末で、220haを突破

### 川崎市の緑地保全制度

#### 法による制度「都市緑地法」

##### ●特別緑地保全地区

風致や景観に優れ、動植物の生息地として保全する必要がある緑地は、土地所有者のご理解とご協力を得ながら、都市緑地法による指定を行っている。指定後は、建築物の新築・改築または増築、土地の造成など緑地の保全に支障となる行為は、市長への許可が必要となる。

##### ●市民緑地

緑地を市民へ公開することを目的に、土地所有者と川崎市が借地契約を締結する制度のこと。相続税の評価減等のメリットがある。

#### 条例による制度「川崎市の緑の保全及び緑化の推進に関する条例」

##### ●緑の保全地域

法による「特別緑地保全地区」を補完する条例制度のこと。市民生活の良好な環境の確保に寄与すると認められる豊かな林、水辺等と一体となった緑地を条例により指定を行っている。

指定後は、建築物の新築・改築または増築、土地の造成など緑地の保全に支障となる行為は、市長への届出が必要となる。

#### 要綱による制度「緑地保全事業要綱」

##### ●緑地保全協定

要綱により土地所有者と一定の期間(原則5年間)について、緑地の保全を行う協定制度のこと。

法と条例による制度よりもゆるやかな規制であることから、所有者の方々に理解がされやすい制度となっている。

強  
緑地保全の制限  
弱

## 2 水辺とみどり⑩

### 大規模公園緑地(富士見周辺)

富士見周辺地区については、川崎市スポーツ・文化センターや川崎富士見球技場など、都心における総合公園にふさわしい再生に向けた取組を推進している。



川崎市スポーツ・文化総合センター(イメージ)  
着工:2015年1月~竣工:2017年6月(想定)



川崎富士見球場  
2014年度メインスタンド供用開始

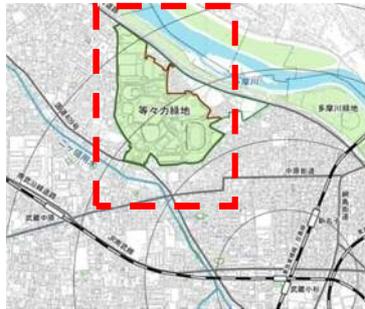


川崎競輪場  
2014年西スタンド等供用開始  
2016年度メインスタンド供用再開  
ショッピングセンター  
(2015年夏完成予定)

## 2 水辺とみどり⑪

### 大規模公園緑地(等々力緑地周辺)

等々力緑地は、川崎フロンターレのホームスタジアムである陸上競技場やその他の運動施設、文化施設、そして市民の憩いの場など多面的な機能を有する貴重な地域資源である。



競技場周辺の整備イメージ



陸上競技場整備イメージ



第1期整備完成時 イメージ図(鳥瞰)



第1期整備完成時 イメージ図

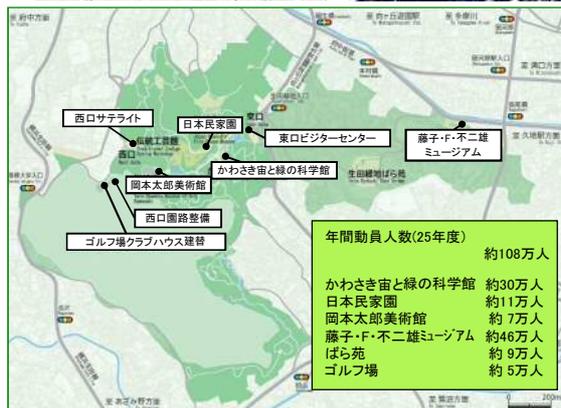
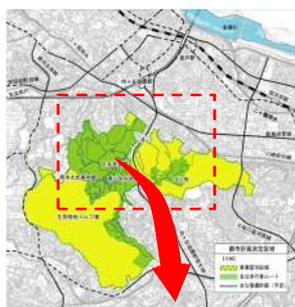


第2期整備完成時 イメージ図

## 2 水辺とみどり⑫

### 大規模公園緑地(生田緑地周辺)

生田緑地は、首都圏を代表する緑豊かな自然的環境を有し、藤子・F・不二雄ミュージアムなど個性と魅力ある市民利用施設が集積する本市を代表する貴重な地域資源である。



**藤子・F・不二雄ミュージアム**

- ・平成23年9月3日開館
- ・敷地面積 約5,500㎡
- ・延床面積 約3,600㎡
- ・地上3階建て(鉄筋)
- ・一部鉄骨造
- ・主な構成
  - 展示室1.2
  - プラザ及び映像展示室
  - 屋上ひろば など
- ・閉館時間 10時～18時(火曜日休館)

**かわさき宙と緑の科学館**

- ・平成24年4月28日リニューアルオープン
- ・延床面積 3,000㎡
- ・主な構成
  - 展示室(川崎の自然)プラネリウム(座席数202席)
  - 【ガスターⅢフュージョンシステムによる世界最高水準の投影7ストロラス4台の大型遠鏡】による昼・夜の星空観望会
  - 学習室、実験室、調査研究室、収蔵庫、標本製作室
  - カフェテラス、ミュージアムショップ

**生田緑地東口ビジターセンター及び西口サテライト**

- ・平成24年4月8日開館
- ・延床面積 東口ビジターセンター:約400㎡
- 西口サテライト:約30㎡
- ・主な構成
  - 展示スペース、企画展示スペース、多目的スペース、事務室 など
- 東口ビジターセンター:生田緑地の総合窓口・情報発信拠点
- 西口サテライト:西の玄関口として、緑地や各館を案内する施設

## 2 水辺とみどり⑬

### 公園管理の活動

維持管理業務は、公園緑地の整備拡充とともに増大しており、その一部業務を川崎市公園緑地協会へ委託している。また、「公園緑地愛護会」や「管理運営協議会」による地域住民による維持管理活動も行われている。

	公園緑地愛護会【343公園258団体】 (昭和53年から)	管理運営協議会【508公園377団体】 (本格実施は平成18年度から)
目的	公園及び緑道緑地の除草、清掃等の美化運動や公園施設の保全のため、維持管理作業を自発的に行う団体を愛護会として設立	活動内容の多様化や公園等においてボランティア活動を自主的に取り組む姿が見られるようになり、身近な公園を地域の庭としてより柔軟に活用してもらうため、その運営を「公園緑地愛護会」から地元新たに組織する「管理運営協議会」へ移行を進めている。
運営	●公園の愛護作業を行う町内会・自治会・サークル仲間・近所仲間等を対象	●1公園1協議会(当該公園に関わる町内会・自治会、公園利用者、愛護会等の団体で組織)
維持管理	●公園内の除草・清掃 ●くずかごのゴミ処理 ●破損遊具等の連絡 ●不法投棄物の連絡 ●事故時の連絡 ●砂場内のゴミの除去	●公園内の除草・清掃 ●くずかごのゴミ処理 ●破損遊具等の連絡 ●不法投棄物の連絡 ●事故時の連絡 ●砂場内のゴミの除去 ●地表から2m程度までの下枝落とし及び低木の刈り込み(公園内の見通し確保のため) ●花壇の維持管理(任意)
報奨金 (年額)	公園面積に応じて 12,000円(～500㎡)から30,000円(3,001㎡以上)	公園面積に応じて 24,000円(～200㎡)から90,000円(3,001㎡以上)



出典:川崎市資料

15

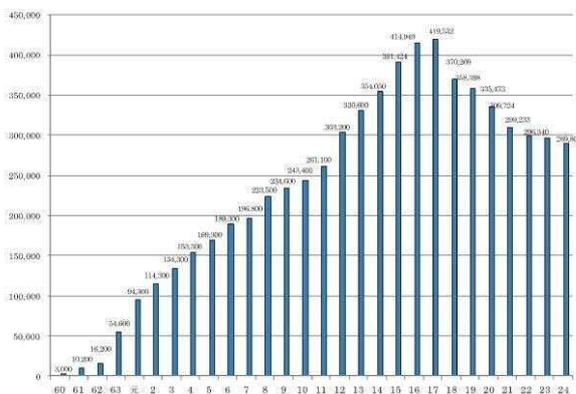
## 2 水辺とみどり⑭

### 緑化基金

「川崎市緑化基金」は、市と市民、事業者、団体の協力により積み立てるもので、市及び公益団体「川崎市公園緑地協会」が行う緑事業の原資として、公共性の高い民有地等の緑の保全、緑化に役立っている。

積立額 28億9,809万円  
(平成25年3月31日現在)

積立金額の推移(単位:万円)



#### 基金を活用している事業

- 市民100万本植樹事業
  - ・思い出記念樹 樹繫(きづな)事業 ・植樹祭 ・市民コラボ植樹
- 助成事業
  - ・緑の活動団体への助成 ・駐車場、生垣づくりへの助成
  - ・屋上緑化、壁面緑化への助成
- 屋上緑化・壁面緑化事業
  - ・緑のカーテンの普及啓発 ・屋上緑化の普及啓発
- 緑地保全事業
  - ・里山管理への支援 ・保全緑地の管理



出典:川崎市資料

16

## 2 水辺とみどり⑮

### 緑地保全の活動

川崎市と川崎信用金庫は平成26年3月に締結した包括協定に基づき、里山保全管理活動についての協定を締結した。(かわさき里山コラボ事業)

#### 協定内容

目的	「王禅寺東特別緑地保全地区」において、保全管理活動を実施し、緑地の生物多様性の保全を図り、市民生活における良好な環境の確保を図るため。
期間	平成26年3月19日から平成32年3月31日まで ※期間満了後は1年ごとに自動更新

#### 活動の内容

春と秋に川崎信用金庫職員により、竹の伐採や枯れて倒れた竹の整理など美しい竹林にするための保全管理作業を行う。

#### 保全管理テーマ

「竹林は、いろいろ楽しめるタイムカプセル」  
～子どもからお年寄りまで、童心に帰れるちょっと昔の自然が残る郷土の森の保全～

#### 基本方針

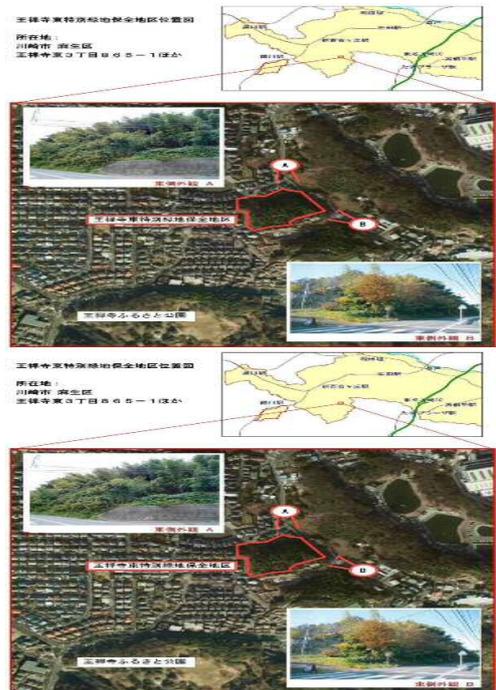
地域の皆様の散策や子どもたちの自然学習の場として有効に使える緑地を目指す。

かわさき里山コラボとは

里山の保全の推進を目指すため、企業・教育機関等の参加協力をいただき、緑の将来像や管理のあり方についてワークショップを行いながら、実践的な保全活動を行う。

※その他の「かわさき里山コラボ」参加企業

・富士通(株)川崎工場 ・NECインフロンティア(株)



## 2 水辺とみどり⑯

### 多摩川の魅力を活かした取組

多摩川の魅力的な資源を活かした様々な活動が行われている。

#### 多摩川を『理解』する

- 東高津小学校の4年生が環境学習の一環として描いたポスターの掲示



- 多摩川の魅力を紹介する情報発信センターの管理運営と様々な市民活動の展開

【ニヶ領せせらぎ館(多摩区)】

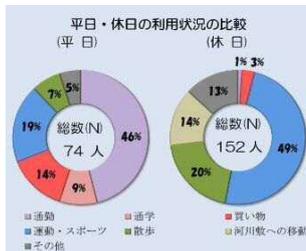


【多摩川交流センター(幸区)】



#### 多摩川を『整備』する

- 多摩川サイクリングコースを快適に利用できるような取組を推進します。



- 重点エリアの再整備として、旧日ハム球団グラウンド跡地を硬式野球場として整備しました。



#### 多摩川を『保全・活用』する

- 「水辺の楽校」は多摩川流域では、20校運営されており、川崎市内では「かわさき」「とどろき」「だいし」の3校で活動が行われています。



- かわさき多摩川博2013 (多摩川桜/コンサート・河口干潟観察会・エコ★カップいかに下り)



- スポーツイベントの実施 (多摩川カヌー教室・川崎国際多摩川マラソン・多摩川リバーサイド駅伝)



出典:2013年度川崎市多摩川プラン実施事業報告書

## 2 水辺とみどり①

### 水質が改善した多摩川

近年、多摩川の水質が大幅に改善され、多摩川を遡上する天然アユが増加している。

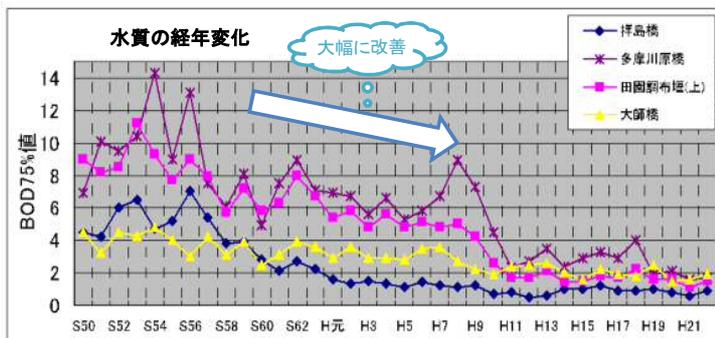
昭和40年代、工場排水などで汚濁した多摩川



出典：東京都環境局ホームページ

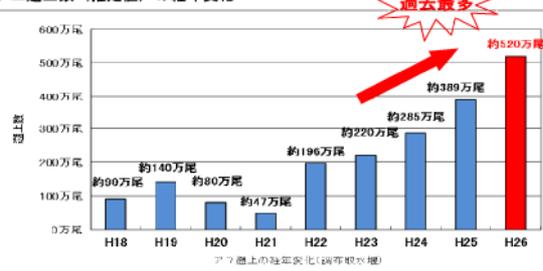


アユの遡上状況



出典：国交省京浜河川事務所

アユ遡上数（推定値）の経年変化



出典：国交省京浜河川事務所

## 2 水辺とみどり 要点

- 公園緑地面積は年々着実に増加し、一人当たり公園面積も着実に増加しているが、他の大都市と比較して低い水準に留まっている。
- 緑の基本計画において、平成20年からの10年間で約1割(430ha)の緑を増やすことを目標に掲げ、緑の保全、創出、育成に向けた取組が進められているが、行政のほか、企業、市民が主体となった取組の促進が課題となっている。
- 維持管理業務は、公園緑地の整備拡充とともに増大しており、地域住民による維持管理活動や企業との里山保全活動などの連携により行われており、今後も取組の拡大が求められている。
- 「公園緑地愛護会」や「管理運営協議会」の設立が進んでいるが、今後、活動メンバーの高齢化が進み、活動の停滞が懸念されている。
- 近年、多摩川の水質が大幅に改善され、多摩川の魅力的な資源を活かした様々な活動が行われている。